

報告タイトル (* 日本語と英語両方ご記入ください)

中国における農地収用の利益分配をめぐる都市農村関係の政治経済学

— 2004 年以降の新たな展開に関する一考察 —

“The Political Economy of Chinese Urban-Rural Relations in the Process of Agricultural Land Expropriation—A New Tendency after 2004”

氏名 (所属)

鄭 黄燕

(東京大学・特任研究員)

ZHENG Huangyan

(Project Researcher, The University of Tokyo.)

要旨 (800 字程度)

本研究では、農地収用の利益分配をめぐり、都市政府、村集団の指導部、村民といった都市農村の諸主体の相互関係が生み出す分配のあり方を考察し、それを通じて中国社会の変容を論じる。具体的には、筆者の行った現地調査に基づき、政策と社会の双方向的な影響関係に着目しながら、分配構造の変化を分析する。

現代中国社会は、都市と農村に分断され、二元構造をなしているとみられてきた。こうした構造は、計画経済期における工業化戦略の産物である。当時、工業化の開発目標のため、都市と農村それぞれに異なる制度が作り上げられ、工業化の主力として位置付けられた都市に農村の資源が投入された。そして、しばしば、都市に利益が集中する反面、農村は資源を吸い上げられ、両者の格差が生じた。市場経済化以降も、都市農村間の格差は、構造的な問題として中国社会に存在してきた。

1990 年代以降、市場経済化と都市化が進展する中で、農地収用をめぐる利益分配は都市農村間の格差を反映する好例となった。農地収用の動きについて先行研究では、政府に農地を買い上げられる農民が十分な補償を受け取れず陳情に走る、側面が考察されてきた。ところが、筆者の現地調査によれば、土地を手放した一部の農民が補償金を使い切ってしまった後で都市政府や村の組織に救済を求める現象が起きた。都市化のもたらしたこうした現象について、既存の研究ではほとんど論じられておらず、従来の観点からは説明することができない。

農地収用の利益分配プロセスには、次の二段階が含まれる。①収用価格の設定に反映される都市と農村間の分配、②農村の土地の集団所有制にかかわる村内部の村集団と村民個人の分配、である。

2004 年以降、分配方式の大枠には変更がないものの、中央政府によって新たな方向性が示された。新政策には、立地要因を勘案した地価の設定、村集団への分配額の制限などが含まれる。政策調整の背景には、都市政府や村の幹部の権力乱用を制限することを通して、農民に利益を行きわたらせる狙いがあった。しかし、新たな政策によって、村民は脱集団化し、個人の能力に頼らざるを得なくなり、市場のリスクに晒されるようになった。こうして都市化は新たな格差を引き起こした。